

夏休みのための読書のすすめ

「倉橋惣三選集」全四巻

山下俊郎

幼児保育者にとっては、夏休みは自己を高める時である。このことは、毎年各地で各種の団体によって開催される夏期講演、夏期講習に参加される保育者の熱心な姿を見ると、いまさらわたくしが事改めていわなくてもいいことであるかも知れない。しかし、講演、講習で研修すると同時に読書によって自己を高め、より深い掘り下げによって、新しいたましいの糧を得ることは、もっと大切なことであると言いたい。毎日、少しずつでもいいから、ふだん読めないようなまとまった書物を読んで、自己を高めることをつとめていただきたいと思う。

そこで、どういう書物を読んだらよいかということであるが、わたくしはいま日本の保育者にぜひ読んでもらいたいと思う書物として、「倉橋惣三選集」全四巻（フレーベル館発行）を挙げたい。倉橋惣三先生は、今の若い保育者にはあまりなじみのないお名前かも知れないが、一昨年幼稚園教育九十年の記念にわが国の幼稚園の歴史がいろいろの人によって語られた際必ず出てきたお

名前である。現代の幼児保育のあるべき姿について、すでに大正のはじめから保育の道を説かれた、いわば日本の幼児保育の父というべき先覚者が倉橋先生なのである。幼児というものについての考え方、それに基づいて打ちたてられた保育の正しい姿、それらについて基本的な考え方を、倉橋先生の文章から学びとられることを、わたくしは強く希望したい。先生の文章はまことに名文であるが、今日の若い人々にはややクラシックに属するかも知れない。しかし、幼児への心からなる愛情がしたむきに語られている先生の文章は、若い保育者の心にも強く訴えるものがあることを、わたくしは信じて疑わない。

この選集の第一巻には、「幼稚園真諦」「子供讃歌」「フレーベル」の三編、第二巻には「幼稚園雑草」、第三巻には「育ての心」「就学前の教育」の二編がおさめられ、そのほか各巻に先生の年譜、著述目録がのせられている。なお第四巻は以上のほかに書かれた文を収録してある。